

水野教育長記者会見 概要

日時：令和7年10月20日（月）16時00分～16時40分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

10月13日で、大阪関西万博が閉幕を迎えました。我々、大阪府教育庁といたしまして、子どもたちの無料招待事業において、小学校・中学校そして高校から本当に多くの児童生徒が校外学習で万博会場に訪れて、大変貴重な学びを持って帰ったという報告を受けております。

皆様にも取材をしていただきましたが、校外学習で1209校の学校が参加し、約40万人の子どもたちが来てくれました。そして、本事業では参加しない子どもたちには無料のチケットIDを配布しておりましたが、校外学習では参加しなかったものの、そのチケットIDを利用して約15万人の子どもたちが万博会場に訪れました。

この事業において、55万人の子どもたちが未来社会に触れるような、わくわくする体験ができたものと認識しております。

私が就任したときから無料招待事業に関しましては、皆様からもたくさんの取材をいただき、その中で、我々自身がもっと配慮すべきことや説明をさせてほしいことをご説明させていただく機会を記者の皆さんに作っていただきました。改めて感謝を申し上げます。

○大阪教育ゆめ基金への新たな寄附方法について

大阪府では、教育課題に的確に対応し、大阪の子どもたちの「学び」と「はぐくみ」を支えるため、「大阪教育ゆめ基金」を設置し、皆様からいただいたご寄附を、子どもたちの学力を向上させる取り組みや、豊かな心を育むための取り組みなどに活用しています。

寄附の申込みは、これまでも大阪府行政オンラインシステムからお申込みいただけますが、今後、新たに、「さとふる」、「ふるさとチョイス」、「楽天ふるさと納税」といった、ふるさと納税ポータルサイトからでもお申込みいただけるように進めているところです。

現在、調整をしているところですが、「さとふる」「ふるさとチョイス」については10月27日（月曜日）から運用を開始します。

「楽天ふるさと納税」については11月中旬以降から開始しますが、府立学校等を指定した寄附も受付ができるよう、調整しているところです。

また、都道府県初の取り組みとして、11月中旬以降、PayPayでも寄附ができるようにいたします。お手持ちのスマートフォン等から二次元コードを読み取っていただき、皆様のお気持ちを金額で入力していただく仕組みになっております。二次元コードは、まず始めに、大

阪府庁別館にある大阪府教育庁のほか、図書館等の府の教育関係施設に設置する予定です。

ふるさと納税ポータルサイトと PayPay については、決定次第、あらためて報道発表をいたします。

そのほか、遺贈寄附の受付も行っており、本日、大阪教育ゆめ基金への遺贈寄附を希望される方の意思が円滑に実現されるよう、このたび「りそな銀行」、「関西みらい銀行」、「池田泉州銀行」の金融機関と、金融機関の遺言信託を活用した遺贈寄附に関する協定を締結しました。

遺贈寄附にご関心のある方は、各金融機関の窓口のほか、大阪府教育庁 教育総務企画課まで問い合わせていただきますよう、お願いいたします。

大阪教育ゆめ基金への寄附を通じて、これからの大阪を担う子どもたちを応援していただけるよう、ご協力いただければ幸いです。

○教員スタートアッププログラムについて

府教育庁では、教職として学校現場で働くことに興味を持っていただくため、教員免許状はあるけれど教職に就いたことがない方や、教職から長く離れている方を対象に、今の学校の様子を学ぶことができる「教員スタートアッププログラム」を開催しています。

このたび、今年度の第2回めを、11月3日（月曜日）に、大阪学院大学にて開催します。10月1日より、府のホームページ上で申込の受付を開始しています。今年度、5月に開催した際は、大変好評をいただきましたので、お早めに申込いただきますよう、お願いいたします。

また、今年度から実施している学校見学会ですが、第4回目として11月21日（金曜日）に府立生野支援学校にて開催します。本日より、府のホームページ上で申込の受付を開始しますので、ご興味のある方はこちらもお申込みください。

なお、府教委では、講師登録についても、随時受付しております。詳細は府のホームページをご覧ください。

○「第19回 若者ダンス・カーニバル」の開催および出場者募集について

大阪府立中央図書館 ライティホールにおいて、令和8年2月15日に「第19回 若者ダンス・カーニバル」を開催します。

このダンス大会は、図書館の横で踊っていたダンス好きの若者たちのために、大きな舞台で発表する機会を設けてあげたいという図書館職員の発案から始まりました。これに先立ち、現在、出場チームを募集しています。

応募条件は、16歳～25歳までのアマチュアによるダンスチーム。ジャンル不問で、1チーム3分間の中で趣向を凝らしたパフォーマンスを発揮していただきます。募集チーム数は15組、予定数以上の応募があった場合は、厳正な抽選をもって出場チームを決定します。

応募締切りは11月29日です。詳細は大阪府立中央図書館ライティホールのホームペー

ジをご覧ください。

昨年度は、ゲストダンスチームも含めて、合計 16 チームが出演し、大きな盛り上がりのある感動的なステージとなりました。今年度も、引き続き、エイベックス・ダンスマスター様にご協力いただき、広報担当副知事もずやんも参加し、ますます活気のあるステージを予定しています。

たくさんのチームのご応募、そして、ご観覧いただける皆様のご来場をお待ちしています。

○府立弥生文化博物館秋季特別展の開催について

府立弥生文化博物館では、12 月 7 日（日曜日）まで秋季特別展「伝世(でんせい) 弥生時代と古墳時代をつなぐモノ」を開催しています。

今回の展示は、「伝世品(でんせいひん)」をテーマとしています。

「伝世品」とは、山中で見つかった銅鐸や古墳から発掘された銅鏡など、作られた年代と地中に埋まった年代が大きく異なるものを指します。銅鐸や銅鏡は、当時の日本列島では採れない青銅で作られており、中国大陸との外交や交易なしには入手できない貴重なものでした。

そのため、人々のあいだで「宝物」として大切に後世へと伝えられました。しかし、時が流れ、やがてそれらは地中へと埋められ姿を消すこととなりました。その背景には、弥生時代から古墳時代にかけての大きな社会の変化があったと考えられています。

こうした「伝世品」をもとに、中国大陸との外交を担った勢力について考えていくと、日本列島における古代王権の成立過程を知ることにつながります。一方で、土に埋まっていたものをてがかりとする考古学では、「伝世」すなわち埋まらなかった期間のことを考えるということは、非常に難しい課題となります。

本展では、「伝世品」に関するこれまでになかった新たな視点からの解釈や詳細な分析の成果、そして、それらをめぐる熱い議論などについて検討し、この難問に挑みます。

会期中は、週末を中心に、展示に関連した講演会や、低い温度で溶ける金属を使って鏡を鋳造するワークショップなども開催します。老若男女問わず楽しんでいただける催しとなっていますので、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

質疑応答

○ゆめ基金における寄附メニューの拡充の意図について①

(NHK)

ゆめ基金の寄附のメニューについて、様々なパターンで寄附ができるように拡充されましたが、このあたりの狙いについて教えてください。

そして、これから大阪の教育行政を巡っては府立高校のアクションプランなどにより、高校の美装化など、多分に財源を必要とする事業もこれから進んでいくということで、アクシ

ョンプランとの兼ね合いから、より寄附を集めた方がいいというところなのか、そのあたりもあわせてお聞かせください。

(水野教育長)

ゆめ基金自体は平成 20 年度からございまして、それからずっと、行政オンラインシステムで申し込みをいただいていた。このたび間口を広げて違う形も進める理由に関しては、私も元民間の経営者で、当時から公教育に対して大変危機感と興味・関心、そして母校愛、地域愛がありました。多くの民間企業の皆さんは集まると、学校や教育の話が結構出てきます。「何とかできないものかな。」という話は出るものの、その場で終わってしまうのですが、このゆめ基金の間口をもう少し広げていけば、「公教育に何か力を貸したい。」「投資をしたい。」と言ってくれる人たちがいますので、難しい手続きではないやり方を増やして、少しでもその入口を増やしたいと考えています。

これは、アクションプランで様々なものを示したことで、お金が必要になるからもっと稼がなければならない切実な状況というわけではありません。そもそも、教育行政は我々が予算をすべて決めて、作ることができません。もちろん予算案はしっかり出していくのですが、財政当局との諸々の折衝の中で最終的な予算が決まっていきます。事実、その折衝の中で削られていくものもあります。これは大阪府だけではなく、おそらく多くの行政においてです。

それに対して、我々自らがしっかりとお金の流れを作り、自らの財源確保を姿勢として示し、場合によっては付かなかった予算に対して、お気持ちでいただいたお金を子どもたちのために使わせていただいています。

こちらに関しては、どちらかという社会変革のイメージもあります。公教育に対し、社会がもっともっと投資をしていくような流れを作っていきたいという思いもあって、今回新たな取組みをスタートさせました。

○ゆめ基金の目標額について

(NHK)

ちなみに教育庁も民間ご出身ということですが、例えば、今の寄付額から 2 倍ぐらいにしたいなど、何か目標をお考えでしょうか。

(水野教育長)

年度当初に示す額として、1 億円ですね。私が就任してから、過去のゆめ基金に関するデータを見ていくと、1 本あたりの大口でいただける方がいらっしゃった年は、総額がとても増えるんですよ。それこそ 1 億円に届くような額に。

しかし、その大口の方が少ない年は、その半分以下ぐらいになったりします。令和 6 年度は私もいろいろと営業をさせていただいたのですが、およそ 8500 万円ぐらいでした。

ですので、単純に目標額を聞かれると、昨年度の営業させていただき、大口でもたくさん

いただきました 8500 万円を考えたとき、その上限値を超えるとする数値で表せば、やはり 1 億円をめざしたいところです。

○万博のレガシーとして繋いでいきたいことについて

(NHK)

冒頭でご説明いただいた万博についてお伺いします。教育長も X で発信をされてましたが、改めて子ども無料招待事業を教育面でのレガシーとして、教育庁の方でこれから大阪の教育や子どもたちの未来のために繋いでいくという観点で、新たに何かお考えや計画等があれば、お聞かせいただけますでしょうか。

(水野教育長)

X も見ていただいていたんですか。ありがとうございます。今回、すごかったんですよ。万博で個人的に X でつぶやいて、自分の自撮りまで珍しくとったら、バズりました。それが Yahoo ニュースのトップの方に出まして、万博に対する注目は本当にすごいなと改めて感じました。

その中でも多くの方々から X でいろんなメッセージをいただきました。基本的には、感謝と「よくやってくれた。」という内容が 9 割 9 分でした。1 年前は、ほぼ逆だったんですよ。「お前、何を考えているんだ。」という内容が多かったのですが、この半年間で直接触れていただいたことで、ずいぶんとその受け止めも変わったんだなと、ほっとするところもあります。

その上で、ご質問の子どもたちに何を残していくのか、実は私の中で二つ論点が分かれています。一つめの論点としては、万博期間中に様々な企画やイベント、万博の校外学習に向けて行った授業、繋がり、そういうものを学校現場も経験できました。

例えば、英語であれば、「EMO-1 グランプリ」という英語漫才コンテストも実施しましたが、そういったものが何か継続できないかと、いわゆるソフトレガシーを繋げるために、引き続き大阪府教育庁としても予算取りに動いていきたいと考えております。それはもうたくさんあります。

もう一方の考えとしては、万博に行った子どもたちに対し、我々大人側が「万博に行ったんだから・・・」とあまり言い過ぎるのもどうかなと思っています。

万博に行って、感じたそのときの感動や思いは一人一人違うと思います。私は、その子どもたちが将来「やっぱり万博に行ってよかったな」と、いい思い出で終わってしまってもいいと思います。場合によっては、その思い出から自分の中で何か動き出して、社会変革に何か寄与するような、そういう人生を歩んでくれたら、もちろんうれしいです。

ただ、それを我々側が、全てコントロールするのは傲慢な感じもすると、2 つに分けて考えているところです。

○ゆめ基金の使途について

(日経新聞)

ゆめ基金について、お伺いします。目標額は1億円と仰いましたが、集められた金額を特に投資したい分野など、具体的にお考えなどありましたら、お伺いしたいです。

(水野教育長)

ゆめ基金に関しましては、大阪府の教育全体に使いますというものと、学校を指定してご寄付をいただくという「母校応援ふるさと納税」と、大きくこの2つがあります。

「母校応援ふるさと納税」でいただいた金額は、ご指定いただいた学校で使っていただきます。大阪府の教育のために使ってくださいというところでは、これまでの実績で言いますと、不登校支援や日本語指導の分野であったり、英語教育の推進であったりと、実績としてはいくつかあります。今の段階で、今年度集まったお金を「これに使う」と決まっているものではないのですが、実績としてはそのような形になります。

○府立学校における実業教育について

(日経新聞)

府立高校改革アクションプランについてご質問させていただきます。8月の会見でもご説明いただきましたが、普通高校、工業や商業などの様々な高校改革プランを示されています。工業や商業・農業などの専門学校を改革する理由を改めてお伺いできれば幸いです。

(水野教育長)

今、私学の授業料無償化という大きな流れがある中で、経済的な理由などによって進路を諦めざるを得なくなる子が減っていく、いなくなっていく社会を想定したときに、私学の方に魅力を感じて、専願で受ける子たちが一定増えていくという流れが昨年度も確認できました。

その中で、府立高校全般で魅力化・特色化を進め、選んでもらえるように、もっともっとアップデートをもちろんしていけないことは大前提ですが、中でもこの実業に関しては、私立学校ではおそらく運営や経営がなかなかしづらく、かなり難しいものであると認識しております。

理由としては、結構コストがかかるところです。例えばですが、工科系高校だと大きい工場が学校にあり、様々な機械が並んでいます。3Dプリンタももちろんあったり、5軸のマシニングセンタは1億円ぐらいのものが入ったりしています。先生方についても、専門的な人材を入れないといけない。農芸高校では、牛をはじめとした動物をたくさん飼育しており、広大な土地もあります。

これらに通う生徒1人当たりのいわゆる単価は、63万円では済まないです。1人当たり100万円近くになるかもしれません。細かい数字は担当にお問い合わせいただきたいのです

が、私立学校でこの実業教育を作り、運用していくということはおそらく難しいと思います。

しかし、大事な分野です。これから工業系では、ロボティクスももちろん考えていかないといけない。農芸や園芸の分野においても、これからどんどんバイオテクノロジーが伸びていくと思います。そこを大阪府公立として、しっかり投資をして、未来志向の新たな学びを、やっぱり進めていく必要があると考えています。

ですので、未来を見据えたときに、よりとんがった実業教育が必要だという考え方と、私立学校ではなかなか担えない領域だからこそ、公立は力を入れたいというこの 2 点が主な理由です。

(日経新聞)

私学ではなかなか取り入れることができないとご説明いただきましたが、公立高校を減らしていくという試算も出ていますが、そちらも関わっているのでしょうか。

(水野教育長)

実業教育のところももちろん求められず、ニーズがなければ、果たして存在価値があるんだろうかと、同じ土壌で考えるべきものかとは思っています。ですが、たくさんあるものではなく、大阪府下においては唯一無二の存在であるので、やはりそこは大切にしていこうという考え方は必要かと思っています。

○これからの実業教育の在り方について

(日経新聞)

A I や GX などの分野は、かなり先駆けた分野だと思いますが、大阪府が全国的に先駆けてこういった実業高校の改革を進める背景など、何かありましたら伺いできれば幸いです。

(水野教育長)

おそらくどの都道府県においても、いわゆる工科系高校というのは、今、変革のときを迎えていると思います。大阪が先駆けてというよりも、日本全体の流れだと思います。

以前に経産省が、2040 年における理系分野の人材不足と、逆に文系分野の人材があふれてしまうというデータを出しました。

そのデータを見ると、工科系高校というところは、テクノロジー分野の学び、手に職をつけるという点で大切だと感じました。

一方で、フライス盤をととても丁寧に扱えるなど手に職をつけることは、中小企業に就職する上で大切なのですが、これからよりテクノロジーの分野、ロボティクスや A I が発展していったときに、自ら A I を作り出し、生み出し、それをマネジメントしていくといった、いわゆる先進的な人材を我々は育てていく必要もあるんじゃないかと考えております。

これは商業高校も同様に、簿記等はとても大事です。損益計算書や貸借対照表などを扱う人材の育成も大切です。

しかし、商業高校だけではないのですが、例えば高校生が独立起業をして、自らが会社を学生時代から立ち上げ、いろいろな社会と繋がる経験をする事、そして万博でも地域や世界を身近に感じられたはずですので、そういうところが繋がっていくような商業高校の学びを進めていく必要はあるかと思います。

ですので、大阪がというよりも、全体的にそういう流れにあると認識しております。もし大阪だけが突き抜けているのであれば、また教えてもらってもいいですか。

(日経新聞)

今、全国的にも専門学校の入学者数が減少傾向にあります、その中で、今後、専門学校に求められる役割をどのように考えられているのか、そして、府としてどのように取り組んでいきたいのか、展望がありましたら伺いできれば幸いです。

(水野教育長)

まず、大前提としては府立高校と全く同じ説明になりますが、大きな少子化の流れの中で、進路選択におけるニーズが徐々に変わってきています。

4年制大学にずいぶん入りやすい時代になったとも言えますので、高校段階で専門学校に進学するよりも、大学に行き、自分のやりたいことを見つけるという層が増えてきていると感じています。また、高校期の専門学校ももちろんありますが、公立や私立と同じ3年間を一条校と言われる学校で学ぶことのニーズが一定あると思います。

ですので、少子化とニーズの変化によって、専門学校に行く人たちが少なくなってきている。これは業界にとっては由々しき事態だと思います。

しかし、その由々しき事態をどのように捉えて、魅力があり、選ばれるものにしていくのか、ある意味では各校の努力が求められています。それがしっかりと子どもたちに認識をされ、選ばれるようになっていけば、きっとまた増えていくと思います。これは、全く同じロジックだと思います。

○ゆめ基金の目標額について

(読売新聞)

先ほどのゆめ基金に係る質問の中で、目標金額は1億円と仰いましたが、それは今回寄附の方法を増やしたことによって、増額を狙いたいという認識でよろしいでしょうか。

(水野教育長)

もう少し細かく言いますと、この4月から、庁内の中で、ゆめ基金チームを立ち上げました。昨年度までは、ゆめ基金担当は職員1人でしたが、今は3人の職員で構成するチーム制

にすることで、まさにこういう新たな流れを作ったり、ご寄贈いただける方にしっかり話をしに伺ったりしております。

当然、新たなチームを立ち上げるということは、何のために立ち上げたのかという旗印が必要です。その旗印の一つが「新たな手法を検討せよ。」ということ、2 つめが「目標数値を明確に 1 億円と示そう。」ということです。

ただ、これはあくまで内部の目標ですので、達成できなければ職員がつらい目に遭うなどという話ではなく、やはり目標数値は掲げて、それを追いかけていこうという考えです。

(読売新聞)

確認ですが、先に目標があった中でこの方法が出てきたと、順番が違うということだと思いますが、今は 1 億円を目標とした場合には、こういった手法を増やして今年、令和 7 年度全体として 1 億円をめざしているという状況でしょうか。来年度以降も新たに方法を増やすかもしれないが、現時点での 1 年間の目標は 1 億円ということでしょうか。1 億円を目標とする理由はあるのでしょうか。

(水野教育長)

昨年度から、ゆめ基金の「母校応援ふるさと納税制度」が始まりましたが、それまでの過去の事例を見ていたときに、私自分の中で「これで 1 億円集めることができれば、よりいろんなことに予算措置が可能になる。」と考えていました。結果、去年は 8500 万円の寄附をいただきました。

ですので、今年はチームも作り、新たな手法も検討するのであれば、組織としてめざす数値目標として、1 億円にしたというところです。

(読売新聞)

前年度を超えて、なおかつ、いろんな事業ができる金額のボリュームということですか。

(水野教育長)

そうですね。実は当初、目標は 100 億円と考えていました。その理由は、学校を建てたり、建て替えができたりするからです。

でも、さすがにそれだけの額をどうやって集めるんだと夢物語的になってくるので、過去の数値から考えて、1 億円をめざしたいなというところですね。

○ゆめ基金における寄附メニューの拡充の意図について②

(産経新聞)

ゆめ基金についてですが、先ほどのお話の中でいわゆる高額の寄付がある年は、1 億円に近づくこともありましたと仰っていました。

一方で、今回 PayPay を含め、いろいろな手法を増やしたというところから考えると、少額の寄付を増やしてもっといろんな方からの寄付をいただきたいという狙いになるでしょうか。

(水野教育長)

大変、鋭いご質問です。私が申し上げているのは、少額でたくさんの人にご寄附いただく手法と、大口でいただく手法は違うということです。ここで言いますと、遺贈寄付は結構大口になりやすいと思います。ふるさと納税ポータルサイトや PayPay は少額の方になるかと思えます。少額といわゆる大口との間に優劣があるのではなく、少額でも、多くの方にファンになってもらい、大阪府の教育に興味関心を持っていただいて、「3000 円でも何か使ってほしい。」と仰ってくれる人を 1 万人集める価値と、会社としてたくさんご寄附いただく価値はまた違うのかと思います。

1 億円をめざすというスコアにしてしまうと同じ数値ですが、意味合いは違うと思っています。今回追加した、ふるさと納税ポータルサイト、PayPay は、いわゆる小口という失礼な言い方ですが、少ない額でたくさんの方により寄附をしていただく手法です。

○ゆめ基金を府民に指定知っていただく広報について

(産経新聞)

そうすると、そもそもこの仕組み自体をまだご存知ない方もいらっしゃると思います。そうすると PR が重要になると思いますが、こういった PayPay、ふるさと納税でも寄附が可能になることをどういう形で広報されていくのでしょうか。

(水野教育長)

もちろん、我々自身が発信をしていくところですが、むしろこの記者会見の場かなと思います。ぜひ、記事にしてみてください。

我々も前向きに情報提供をしていきます。ご説明させていただいた意図は大事じゃないですか。「なんかよくわからんけど、お金ください。」なんて、これはとても傲慢な考えです。我々がゆめ基金というものをどういう目的で設置したのか、そしてなぜ今回こういう手法を入れたのか、それは公教育に対して、社会全体の投資を呼び込みたいからです。我々行政は一般財源の中から、教育予算として充てられるそのパーセンテージをどれだけ取ることができるかでしか、お金の流れは持っておらず、社会全体からの投資がないと、生み出せないわけです。

しかし、このようなゆめ基金は一つの手法ですが、社会から応援されながら、投資をいただくというのも、これからの令和の公教育を考える上では、大変価値のある実験かとも思っています。

○吉村知事による府立学校への視察について

(共同通信)

吉村知事が今週末に府立学校へ視察に行かれますが、教育長として、アテンドしたり、ご案内したりする予定はありますでしょうか。

具体的にはどのように、どういう場所を紹介されるのかなど、具体的に決まっていることがあれば伺いたいです。

(水野教育長)

内装リニューアルについては、YouTube をご覧いただいた知事から総合教育会議で、「すごくいいじゃないか。全校やったらいいんじゃないか。せっかくなので、見に行きます。」というご発言をいただきました。

今回、知事が府立高校へ訪問していただくには当然、今シーズンに内装リニューアルをした学校にお越しいただきます。

私としては、リニューアル前と、リニューアル後の綺麗になった廊下や教室をご覧いただいて、その比較をしていただきたいというところが一つです。

知事からの強いご要望で、生徒の声をぜひ聞きたいと仰っていましたので、生徒と対話をしていただく場をセッティングして、私も同席をさせていただこうと思っています。

○府立学校の内装リニューアルについて

(共同通信)

総合教育会議では、内装リニューアルをしたことで、生徒の満足度が上がったというお話もあったと思います。こういった取組みを府立高校に広げていくということでしょうか。

(水野教育長)

冒頭申し上げたように、私も学校現場に訪問させていただいて、校長先生方とお話したり、授業を見学させていただいたりしています。

120 校ほど訪問しているのですが、やはり施設の老朽化は厳しい状況にあると伺います。しかし、建て替えをしようとする、建て替えをするという意味決定をしてから、完成するのは 10 年後ぐらいなんですね。躯体を残して大規模な改修をしますと言っても、同様に 5 年後ぐらいなんです。今在校している生徒の利益にはならないじゃないですか。

これらはあまりにもお金が必要になるので、なかなか難しいところがありますが、今いる生徒も満足度が高まり、そして、安価に早くできる方法として、この内装リニューアルを進めております。昨年からはモデル実施をしてみて、学校からも好評ですし、生徒の方から「勉強へのやる気が上がってきた。」など、前向きな言葉を聞くと、やってよかったなと思います。

ですので、この手法も、全校的にどこまでできるのかわかりません。これからアクション

プラン、再編整備を進めていく中で、ある程度はリニューアルしないところも出てくるかもしれませんが、知事や私の思いとしては、やはり全ての学校でできたらなと考えております。

無駄なお金は使いたくないので、もう閉めるとわかってるところは、もちろんしないですけども、全体的にはやっていきたいなと思っています。

(共同通信)

今のお話だと、閉めるところはやらない、残していくところは優先的に内装リニューアルを進めていきたいということでしょうか。

(水野教育長)

そういう意味ではありません。募集停止をすると宣言しているところは、しないということとして、「内装リニューアルをしたんだから残します。」とか、「残ると確定しているところだけします。」という意味合いでは決してなくて、基本的には募集停止をしていないところ、そして、校舎の築年数が 60 年未満のところを内装リニューアルするということです。

築年数が 60 年以上になってしまうと、もう躯体の方がもたなくなってくるので、そのあたりも含めて、何校リニューアルするのかという細かいところは、まだ予算の話もできていませんので、あくまで思いとしてです。

そのあたりを知事に直接ご覧いただいて、どのようにお感じになるのか、また子どもたちと接していただいて、新たな要望が出てくるのかを見ていきたいなと思っています。